



ブックオフコーポレーション株式会社

社内開発をASTERIA Warpで標準化 開発工数を約60%削減し、社内開発がスピードアップ!

開発手法統一により開発案件の引き継ぎやメンテナンス性の向上を実現

ブックオフコーポレーションは、古書の買い取り、販売で有名なBOOKOFFを全国に展開している。古書、音楽ソフトのリユースから始まり、現在は総合リユースブランドにまで成長した同社の新規ビジネス展開スピードは速い。新事業に必要なITシステムをすべてアウトソース開発するのではなく、中小規模のものは社内開発することで、ビジネス展開スピードを支えてきた。システムが増え管理の属人化が課題とされたが、それを解決すべくASTERIA Warpを開発ツールとして導入。開発スキルの共有と工数削減、ドキュメント整備のスピード化を実現した。

スピード重視の社内開発に潜む 属人化の弊害が顕在化

ブックオフの成長を陰で支えてきたのが、同社のITシステムを開発、運用するIT統括部だ。市場の変化に応じて新たな業態、店舗を展開するスピードが速い同社では、システム部門への要求レベルが高い。新業態の構想が決まってから、実際に店舗に展開され、POSが稼働し始めるまでにアウトソースする時間的余裕のない程の納期を要求されることも多いと言う。アウトソースできない場合は、社内開発で対応することになるが、その際の実開発手法は特に決められていなかった。対応スピードを優先していたため、担当するメンバーが得意な手法、プログラム言語によって対応を続けてきた。

その結果、開発やその後のメンテナンスが属人化してしまうことや、ドキュメント作成の負荷が大きいことなど、いくつかの課題を抱えるようになった。

特に大きな課題と考えられていたのが、開発の属人化だ。それぞれに持っている開発スキルが違うため、他のメンバーが開発したシステムのメンテナンスを引き継ぐのは容易ではなかった。また店舗を多く持つ小売業の常として、システムは365日稼働させなければならないため、週末に緊急対応を求められることもある。店舗が営業している限りシステムを動かさなければならないので、担当しているシステムの不具合対応のため休日に呼び出されることもあり、お互いに開発やメンテナンスをサポートしあえるよう、開発スキルの標準化が必要だった。

ドキュメント整備が課題視されるようになって

たのは、日本版SOX法の施行以降のことだ。同法の施行に伴いシステムのドキュメント整備が求められるようになったことで、開発現場の負担が増えていた。システムの規模に関わらず全てのシステムに関してドキュメントが求められる、特に小規模なシステム開発では、ドキュメント作成に開発と同程度の時間を要する場合もあり、非常に非効率だった。

ASTERIA Warp選定の決め手はExcel連携 セルのプロパティなどの属性情報まで指定可能

開発言語を統一することがまず検討されたが、採用する言語をひとつに絞るのは難しく、複数の言語を全員が習得するには莫大なコストと時間が必要になる。他の手段について情報収集をする中で浮上したのが、システム間を連携させるプログラマブルなツール群だった。単なるデータ連携にとどまらず、開発環境として活用できるものがあることを知り、それらの中から国内開発のものを選び、比較検討を重ねたと言う。国内開発のものに絞ったのは、ベンダとの距離が近くサポートがしっかりしていること、ヘルプを含めて日本語環境が整っていることが理由だった。

最終的に残った2製品から開発デモなども見た上でASTERIA Warpが選ばれたのは、Excel連携機能が決め手だった。「ASTERIA WarpのExcel連携機能は、競合製品に比べてはるかに充実していました。連携可能なプロトコルが多いことやGUIの開発環境が視覚的でわかりやすいことも決め手になった」と、IT統括部長 成田 昌義氏は理由を説明する。ASTERIA WarpのExcel連携機能なら単なるデータの書き出しだけではなく、セルのプロパティを含めた細かい指定も可能だ。現場で



ブックオフコーポレーション株式会社
IT統括部長

成田 昌義氏
なりた まさよし



●CORPORATE DATA

ブックオフコーポレーション株式会社

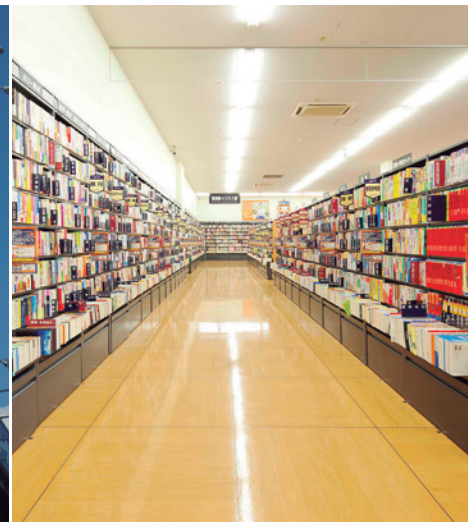
1990年の第1号店オープン以来、積極的に新店舗や新業態を展開、古書を中心にリユース業の新しい姿を示し続けてきた。「捨てない人のブックオフ」をキャッチコピーに、循環型社会のインフラを目指す。海外4カ国にも進出し、2015年12月時点で約900店舗を展開している。

本社所在地 ● 神奈川県相模原市南区古淵2-14-20
URL ● <http://www.bookoff.co.jp/>

頻繁に使われている Excelファイルの状態
エラー箇所をハイライトするなどの処理が可
能なので、エラー処理などの運用を円滑化で
きる。そして視覚的にわかりやすいアイコンを
使った開発手法は、従来の開発ツールに比べ
てスキル習得に必要な期間を短縮できると期
待された。さらに、導入を支援した住商情報
システム（現：SCSK株式会社）から、導入
前に具体的な課題に合わせたサンプルフロ
アの提示を受けるなど、サポート面でのフット
ワークの良さも製品選定のポイントとなった。

共同開発、メンテナンスの引き継ぎが容易に！
ドキュメント作成時間も
仕様書出力機能で大幅削減

ASTERIA Warp 導入時に最初にスキル
を習得した担当者は、そのスキルと、先行し
て開発したフローをグループ内で共有し、今
ではグループ全員、ASTERIA Warpによる
開発が可能になっている。「プログラムや開
発の専門的な知識がなくても使い始められ、
エラー処理も簡単に作れるので助かっていま
す。Accessと同じような感覚でデータベース
連携も実装できるので、開発時間は明らか
に短縮されますね」と、その導入効果を語る。
成田氏も「開発工数は従来手法に比べて約



60%ほど削減されました。体感的には、1週
間かかっていたものが1～2日で完成するよ
うになったという印象」と、効果を認めてい
る。

開発環境が統一されたことで、当初課題と
されていた引き継ぎやメンテナンスの状況も一
変した。全員が同じツールを使って開発して
いる上、アイコンの並びを見ただけで仕組みを
把握できるので、開発途中での引き継ぎや、
他のメンバーが開発したツールのメンテナン

スが容易になった。「ある程度作りこんでおき、
苦手な部分だけを得意なメンバーにサポート
してもらう」など、これまでは難しかった共同
開発が手軽にできるようになったと言う。

ドキュメントの整備も、ASTERIA Warpの
仕様書出力機能により大きく変化した。小規
模なシステムでは仕様書作成時間はほぼゼロ
にまで短縮され、大規模なシステムの場合で
も作業時間を7割程度にまで圧縮できている。

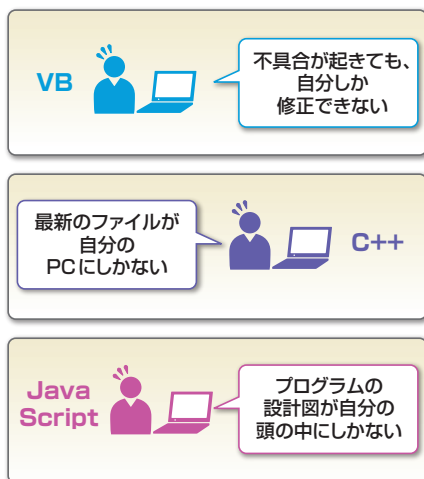
規模が大きく開発期間にも余裕がある等、
社内開発よりアウトソースの方が効率的と判
断されたシステムに関しては引き続きアウトソ
ースが行なわれているが、既存システムとの
連携部分はASTERIA Warpを使って社内開
発されるようになった。「会計システムと勤怠
システムとの連携のためにプログラミング言語
を用いて開発した場合の見積もりが、
ASTERIA Warpの導入コストとほぼ同額で
した。そのコストを削減できただけでも、
ASTERIA Warpは既に投資以上の効果を挙
げている」と、工数と並んでコストも削減でき
ていることを成田氏は教えてくれた。

このようにASTERIA Warpの導入効果が
明確になったことを受けて、その導入効果を
社内に向けてプレゼンテーションする機会が
設けられることとなった。ASTERIA Warpの
導入成功をアピールできる機会となり、また、
ツールの存在が知れることで今後、さらに開
発依頼が増えることが予想されると言う。

ブックオフコーポレーションIT統括部

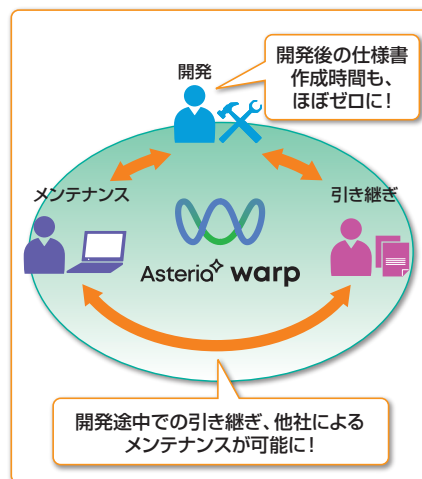
ASTERIA Warp 導入前

使用言語がバラバラで
多くのシステムが属人化



ASTERIA Warp 導入後

スキルの共通化により
開発・メンテナンス能力を共有



Asteria
アステリア株式会社
<https://www.asteria.com/>

〒150-0012
東京都渋谷区広尾1丁目1番39号 恵比寿プライムスクエアタワー19F
TEL. 03-5718-1250

このカタログに記載された情報は2011年1月現在のものです。内容は予告なしに変更することがあります。
Asteriaはアステリア株式会社の登録商標です。
その他、各会社名、各製品名は、各社の商標または登録商標です。

©2020 Asteria Corporation

お問合せ先：